

第4回 名張市総合計画審議会 議事概要

日時：平成27年7月3日（金） 午後2時～午後4時

場所：名張市役所 庁議室

委員出欠状況：全員出席 ※矢倉委員早退

事務局：企画財政部 森岡部長、総合企画政策室 山下室長、中重

1. あいさつ

(会長)

本日は、パブリックコメントに向けての総括協議ということで、事前に基本構想の修正案は、お手元に届いたかと思います。まず、主な修正点を説明させていただきます。

全体的には読みやすい形へと手を入れました。そして、基本構想の修正案の中でもいくつか文言を修正しました。まず10ページをご覧ください。ここでは子育て支援をどういった形でやっていくかということで、学校・地域・家庭の連携が必要であるとか、企業・団体との連携を充実させていく必要がある。それによって、雇用環境、雇用の促進を図るべきだということ、より強く打ち出したことをここに表わしています。

次に12ページをご覧ください。「本市」という表現が行政用語っぽいとの意見に対し、名張市という言葉で強調する形で、「名張」を入れました。同ページの下から4行目ですが、「人と人が互いに助け合う安全・安心なまちづくり」ということで、“安全・安心”を加えました。

15ページの土地利用の図が見にくいという意見に対し、駅や主要道路を入れました。

17から18ページ、第1節まちづくりの基本目標で、1と4で表現が重なっているため分かりにくいとの意見については、[1. 支えあい健康で生き生きと暮らせるまちづくり]は、市民「一人ひとりの人権が保障されるまち」ということで、人権施策の要素を打ち出しました。また、[5. 未来につなぐ自立と協働による地域経営]の“地域”というのは地域づくりの地域を指すのか、それともいわゆる市政運営、マネジメント的なものを指すのかが分かりにくいという意見がありました。これに対しては、“市政経営”という言葉に言い換えました。

19ページ、第3節の施策の体系の図に関しても「星がある方が良い」「無い方が良い」のふたつの意見があり、星が付いてない取組はあまり行わないのかといった誤解を招くとの意見があったので、重点戦略の説明部分で「☆印を付したものはより重点的に取り組みます。」という解説を加えることで、「それ以外もやりますよ」と表現を変えさせていただきました。

[①支え合い健康でいきいきと暮らせるまち]の中で、[地域福祉の充実]のところ、生涯現役プロジェクトから星を一つ削除しました。前回の意見を踏まえ、高齢の方も働いていただき、まちづくりを含め参画いただきたい。むしろ福祉という意味でいうと、子育て支援により力を入れていくということで、若者定住プロジェクトに星印を残しています。

主な修正部分はこういったところです。あと、修正案のとおりですのでご確認下さい。あと、郵送後の訂正箇所について、事務局の方から説明ください。

(事務局)

7ページのグラフですが、修正させていただく際に1960年が見え消しでは2回続いていると、記述の誤りがあり修正しました。

(会長)

本日は、パブリックコメントに向け、総括的な審議をいただきたい。まずは、序論の方からご意見、ご質問をいただきたい。

(委員)

本市を名張市に変えたというが、ほとんどは本市となっている。どうしても本市という記述でないといけないのか。また、これまでの意見があまり反映されていない気がするが、文章を読みやすくするための委員会だったのか。それで良かったのかという疑問がある。文書を読みやすくするためにこれだけの人数を集めて何時間も話し合ってきたのか。

(会長)

若干固いと思われるかもしれませんが、行政の文書の書き方というものが一定程度ある中で、表現が変わっていないではないかというご意見ですが、こういう基本構想、計画に関しては、水かけ論になるかもわかりませんが、12ページのところで、名張という言葉タイトルで打ち出すのは、相当大きな動きなのです。“本市”という表現が残っているのは、あまり名張市、名張市となると、それはそれでくどいように私自身は思いましたので、全て“本市”という表現を変えることはしませんでした。

また、重要な質問ですが、「単に文章を読みやすくしただけではないか」とのご指摘について。しかしながら、実はどのようなご意見があったかということも、毎回議事要旨、議事概要を見ながら、その中で疑問点であるとか、質問であるとか、コメントであるとかをひとつひとつ確認をさせていただいております。その上で、根本的に大きく変える部分があるのかということ、おそらくそこまでの意見は、3回の議論の中では無かったのではないかとこの風に私は判断しました。

ただそれでも、これまでいただきましたご意見をより反映させる部分が必要だということは認識しており、だからこそ19ページの図にしましても、地域福祉に関しては、子育て支援をメインに持ってくるんだという、私としてはかなり大きな修正をしたつもりでいます。

もちろん、意見が通っていない、他の委員さんの意見が通っていないという指摘もあろうとは思いますが、これからも受け入れていくわけですが、反映させるべき部分に関しては、一応反映させていただいたつもりであるということで、一応答えとさせていただきたいのですが。

(委員)

19ページの5番のところ、「地域経営」のままになっている。

(会長)

そうですね。失礼しました。

(委員)

(総合計画は) 市民に対して今後名張市がどうあるべきかということを示す根本のものだと思いますが、行政的なことである枠組というものを、市民に向けて発信するのであれば、「動かせるものは最大限動かすんだ」と言いますが、私は逆に「これは動かせないのか」という方を、今の話を伺っていて思う。「本市では」というのは例でしかなく、全般でこの枠に収まったら良いのかという感じを受ける。市民に対してもっと浸透してほしいというのが全面的に出なかったら、わざわざこうやってやる意味がないのではと思う。今回の修正を見て私自身感じた。その辺の位置付けをどの程度まで、参加する私たちは持ったらよいのか。

(会長)

これは前回や前々回にもお話をしましたが、例えば、「新・理想郷プラン」というタイトルについて議論になりました。実は基本構想に関しましては、大きな枠組みや方向性は、市議会にも説明いただいたものがまずありまして、それをもとに審議会の方で委員の皆さんにご審議いただきながらだと、どうしても(原案に近い形に)なってしまいう部分がある。そういう意味では、大幅に全体をチェンジできるかということ、これはなかなか難しいと私は考えています。ここで審議

しているのは行政文書であり、これを大きく変えるとなると審議会としてさらに色々な事を考え、長い時間をかけて審議する必要があると思います。

「市民にどうアピールしていくか」という部分では、仮に基本構想の簡略版を作って、学校などに出していくとか、PRの部分で対応できるのではないかと思います。

今日、お手元の方に基本構想に基づく基本計画の策定にかかる計画一覧ということでご用意をさせていただいています。こちらの方にあるように、非常にたくさんの計画というものが、基本構想にぶら下がっています。これらの計画は、ここで審議している総合計画をもとに動いていくわけですが、当然のことながら総合計画が動くと、これらの計画もガラッと動くこととなります。そういうことも含めて、文言修正にはエネルギーが必要です。不満も若干残るところもあるかと思いますが、その点も含めてより良いものを作っていきたいのでご理解をお願いします。

(委員)

以前、僕は何をしてよいか分からないということを申し上げた。僕は全部やりたい。会長はぜひぶん読みやすくしてくれたけれど、まだ意見があるんです。

例えば、「緑の共生」は、「緑との共生」でないとアカン。など、それ（文言修正）もいっぱいやりたいんですが、そんなことするためにここに来ているんじゃないと言われたら、そうやなどという感じもします。僕は、この際思い切り市民と共有するんやと思いつわりわかりやすく書き換えたらいいと思う。だから、最初に“大綱”というのをやめようとか言ったのですが、どうもこの会で与えられている仕事はそうではないなど、変に物分かり良く考えています。

今日も大話題、中話題、小話題と意見を書いてきましたが、小話題は文字を変える様なものや、「何々とともに」が分かりにくい。Withの後が分かりにくいという点。中話題は“経営”と“運営”が混ざっていること。それから、国土、県土いうけど、“市土”というのは日本語ではない、同じなら市域と使ってしまったら良いのに。大話題では、序説のところで言うと、“地域資源”と“市民”は横並びになっているが、市民は資源ではない。豊かな地域資源とともに市民、と出てくる。これは表現よりも考え方の違いではないか。

もうひとつ、僕の関心領域ですが、序説だけでなく最後までですが、自然を単に恩恵を得るものとしている。もっと積極的に関われば林業にも農業にもなる。関わって育てて自然なのに、今まであったものを頂戴しているだけの表現になっていると以前から言っている。これが全然変わっていない。僕としては、その結果、美しい名張であって欲しいと思う。しかし、本当は、大タイトルに「美しい」を出してほしい。

ふるさと納税が話題になっていますが、私は“ふるさと労働”というのをしてほしい。名張が故郷の人に、お盆に帰って何かを手伝ってもらい、名張に縁の無い人にも、何かする時に来てもらったり、その人も含めて市民だと。僕は活動市民と発言させてもらっているが、その人まで入れてほしいなど。この辺りは、ひょっとしたら大話題かもしれません。

(会長)

「何々とともに・・・」が分かりにくいとか、“経営”と“運営”が混ざっているとか、“市土”という言葉についてご指摘に関しては、もう少し、私の方でももう少し不十分であったかなと思いますので考えてみたい。

大きなお話の中で、いくつかありましたが、先にお答えをしやすい自然について、市民がどう関わっていくかという点は、もう少し表現を加えた方が良かったかなと少し思っています。どういう風に入れるかについては、私の方も表現が思いつかなかったというところもありまして、14ページは修正をかけていませんけれども、[第3章 第2節 土地利用]の所でも、自然と人の共生という言葉の中にも、人も自然に対して関わっていくんだ、という考えもあると理解をし

てやってきました。それが表現としては不十分だということであれば、こちらの方としても問題があったかと思っています。

そして重要なのが1ページの、“市民”“地域資源”の部分。序の〔第一節 計画策定の主旨〕4つ目の段落ですね。「成長に代わる新しい価値観として、持続可能性や生活の質の向上が重視される中、より一層人や企業から選ばれるまちとなるよう豊かな地域資源とともにこれまで市民とともに築き上げてきた名張力を基盤に・・・」の書き方ですよね。市民は地域資源を客体として捉えているだけでは問題があるのではないかというご指摘であったかと思います。私自身も今、委員さんがご指摘になったことについては、完全に欠落をしております、確かに市民も資源なんだけれども、地域資源という言葉を使った場合に、どちらかという、人間からすると客体として、対象物と捉える傾向があって、その方が読みやすいかなという気がします。なので、これはこれで良いのかなと思ったりするのですが他の委員さんの意見を賜りたい。

ふるさと労働についても、故郷のために精一杯汗をかいていただいたらよいのではないかとのご意見がありましたが、これはおそらく19ページの重点戦略も含めた施策体系の中で、「活力に満ちて暮らせるまち」だとか、あるいは、「豊かな心と健やかな体を育み暮らせるまち」で示されていて、生涯学習という話もあります。これと生涯現役プロジェクトが交差をしている形で、まさに生涯学習などを通じながら、ふるさとのために活動いただければ、まちとしてもより良くなっていく、さらには若い人にも名張に愛着を持っていただけることになっていくのではないかと。個人的な見解ですが、お話を伺いながら感じました。

(委員)

ふるさと労働を受け入れていただけたなら、おそらく全国初です。こういうことで一発打ってみたらどうか。という思いがあるから言ったのです。

(会長)

おそらく基本計画レベルの話になってくるのではないかと思います。基本構想に文言として入れるのは難しいと思うが、最初に委員からご指摘があったように、市民に対してアピールする部分が欲しいというのは、本当にその通りで、そういう部分に欠けているというご指摘は重いものとして受け取っております。その他、序論に限らず他の委員さんもお意見をください。

(委員)

会長さん仰っていただいたように、小中学校でこの本を読んでもいただくようになるといい、そういう風になじみやすいものになってくれたらいい。

(委員)

大きいところでいえば、これを読ませていただいたときに、たくさんの方を何回も集めて審議するのは行政の、「一応（審議）しました」というようなことなのかなと思うぐらいに構成的なところだけされている。確かに文章は読みやすくなっていますが、皆さんの意見は反映されておらず、その部分では失望の感は拭えません。何のために行っているのか、大きい意見として付け加えさせていただきます。

細かいところで言いますと、10ページ〔2. 重要課題〕の(1)若者が暮らしやすいまちの実現の4行目、「したがって学校、家庭、地域の連携による子育て支援や教育環境の充実を図り同時に企業や諸団体との・・・」というところの主語は何なのか。希望ですが、学校・家庭・地域との連携、これは要するに名張市の行政ですから税金を使って運営していくわけなので、どこを重点的に政策として予算を付けるのかがまず来ると思うのですが、それが地域の連携によることで、「学校と家庭と地域が連携してください」みたいな他力本願的みたいな、投げたような書き方かなと私は受け取った。名張市が行政としてお金を集めて動かすのであり、「学校、家

庭、地域との連携」だと思うのですが、名張市の意思はどうなんだろうなという気がしました。

(3) 助け合い・支えあいのまちの実現のところの2段落目ですが、「相互扶助機能が低下する中、医療・介護、子育てなどが大きな影響を及ぼす・・・」という、一人暮らしや高齢化について書いていますが、しかしながらこうした状況に「大変困難です」とここで否定してしまして、それで「したがって、行政の取組とともに地域の中での「共助」の精神による助け合いや支えあいの体制づくりに取り組む必要があります。」とあるが、これは主語が「行政が」と付くのかも知れませんが、結局最終は地域でやってくださいというような。行政はどこで責任を持つんだろうかということ疑問に思いました。例えば、「行政の指導の下、地域と協働しながら」と文章があれば、行政もそこに重点的にそういう政策を打っていくと思えるのですが、そこが見えないので、文章上のことですが、行政の意思を明確にしていきたいと思いました。

(会長)

まず、「構成的な部分しかしていないと思えた」という部分で失望したと、率直な意見をいただきました。また、10ページの重要課題のところ、行政の責任が見えないとのご指摘をいただきましたが、例えば(1)の二つ目の段落、したがって学校家庭地域の連携による子育て支援という形で、地域とのであれば行政も関わってくるんだろうけれども、地域の、となっているために、行政が関わってこず、学校と地域と家庭に丸投げしているのではないかと読めた、というご意見だったかと。そこに関しては、お話を伺っていて私自身も「と」を入れたほうが良いかなと思ったのですが、これだけでも文章のニュアンスが違って来るわけです。そういう風に考えますと、文章を総いじりするとなると相当なエネルギーが必要であり、ちょっとレベルが違うかもわかりませんが、法律改正をするにあたって、ここに「は」を入れるか入れないか、あるいは、「と」を入れるか取るか、と法制局の方はものすごくエネルギーが要るんですね。実際に、私も事務局とやり取りをしながら出来る限りのことはやったつもりです。

(1)の学校家庭地域の連携によるという部分は、「と」を入れたほうが良かったかと思いませんけれども全面的な修正というのは、限られた時間とマンパワーの中では難しいかなと。しかしながら、委員のご意見、毎回2時間ずつ、すでに3回、今日4回目で、ここで議論する意味があるのかという、厳しい意見をいただいておりますが、一応反映をしているつもりであるところではご理解をいただきたいと思えます。

10ページ(3)の助け合い支えあいのまちの実現の2つ目の段落、ここでも行政の取組だけでなく“共助”の精神による支え合い助け合いが必要、行政の責任感が見えない、とのご指摘だと思っておりますが、一方では、これまで3回の議論の中で、すべて行政がやるのが無理で、一緒にやれる部分は、例えば地域づくりの方で地域の方に頑張ってください、すべてを行政に委ねるのは難しい、無理なんではないかというのは、一定程度同意はとれているという風に理解をしたうえで表現になっているということでございます。

もちろん行政として責任を取らないわけではありませんし、取らないのであれば、そもそも総合計画を作らないでしょうし、19ページの施策の体系、施策の下につながる様々な計画というのは、作らないわけではないわけで、行政もこうしたまちづくりに対して手を出さないわけではないけれども、市民の皆様方のご協力は必要ですよ、ということも訴えかけていきたい。ということで、こういう表現にしました。

(委員)

今後10年の計画ということで、人口減少や高齢化、財政難とかが頭にあったので、今になって気が付いたのですが、この10年先といたら、もう一つ考えられるのが、もっと情報化が重要になってきて、情報セキュリティが大きな問題になってくると思えます。安全安心という部分

で、情報に関する管理ということをもっと挙げてほしい。ここ2・3年でスマートフォンを小学生が持つのが当たり前になってきた。あと2・3年もしたら、すべてがスマートフォンで情報が動くようになってくるとなると、それに関して今までの資料を見たところ、教育という部分で情報教育という表現があるが、学校に関わらない世代の情報に関する意識とか、何かあった時の対応とかの表記がない。おそらく市として何らかの計画はあるのでしょうけれども、素案の中にも入れていただけたらと思いました。

3～4ページの安心・安全の項では、それに関わるような内容で行くと、詐欺事件、オレオレ詐欺ってどうかなと思いましたが、このなかで直接ITにかかわる情報セキュリティというのは見受けられないので、今さらですが入れていただければと思いました。

(会長)

その点に関しては私も意識が欠落しておりました。私事で恐縮ですが、例えば学生相手に情報教育的な事もさせていただいてますが、なかなか情報に対するセキュリティ意識が上がりません。本当かどうか分からないインターネットのサイトに簡単に頼ってしまうという部分があるのも確かです。今後10年を考えていくのにそういう部分を載せていくことが必要だとの委員のご意見だったと思いますが、情報化ということに関しては今少し触れていただいた、3・4ページ計画策定の背景の右側7番が高度情報化の項目ということにはなっている。これと安全・安心が結び付いているかという、そうではなくて、これは基本的には行政の効率化の話で、整えてしまっている部分があるのですが、今後、総合計画の基本構想に、どこまで入れられるか難しいところもあるのかも知れません。例えば、基本計画であるとか、体系のところでは安全・安心の部分に情報セキュリティといったものを入れることも考えてもいいかなと。安全・安心というものが必ずしも物理的なものに限られないことも念頭に置いた形で私の方でも考えてみたいと思います。

(委員)

メモしたものを読みますが、80パーセントが“住みよい”、また、85パーセントが“住み続けたい”とか、これはアンケートだと思いますが、このような行政評価の手法を具体的に示してほしい。自らの評価や、親しい先生にしてもらっていたら話にならない訳で、本来は評価手法と共に公募するものだと思っている。それでも80パーセント、85パーセントの人がプラス評価してもらっていることはすごいことだ。

問題点は、国と同じ人口減と財政悪化みたいなことしか書かれてないこと。何回も言ってきたけれど、名張の自然劣化と景観劣化は酷いものなのに、このままにしていいたら、85パーセント80パーセントの方も大変なことになってくるのではないかな。まちなかの空家が増えているのもそうですね。課題をもう少し明瞭に書いた方が良いのではないかなという気がします。

もう一つ、暮らしやすく住みやすいとご関心の方も多いのですが、医療や教育など、自分が受ける恩恵の部分だけやかましく言っているのではないかな。自分らで何をしましようというのあまりない。もうちょっとバランスよく書かないと、ここの市民は厚かましい人ばかりで、楽な消費のことしか考えてない。生産に関わる事、労働に関わる事、あまり書いていないという気がしています。

それと、文章の重複が多い。検証のところと最後のところ、例えば最後のところの「協働のまちづくり」は検証のところでは協働がうまくやられてきたと書いているが、同じ文章5行も6行も重ねることはないと思います。重複部分が多いから、読んでいてどこを読んだか分からないようになる。将来像といいながら、将来像が具体的に何も書かれていない。どこに出てくるのかな。将来像の実現に向けて何するとは書いてあるが、将来像というのが5つの目標なんだろうけど

も、17ページの文章も、盛り沢山過ぎて、支え合いと健康は、別々にした方が良いのではないかな。盛り沢山に書きすぎると印象が薄れるのでもう少し絞った方がいいのでは。

17ページ2項目目、ここの4つと少なくとも5つのままとしたら、横並びをするのは難しいな。第2項というのは上に上がるやつと違うかな。だから体系のところで星が打てない。打ってしまうと全部打たないといけなくなる。もし7項目になっても構わないから、“支え合うまち”とか“〇〇の健康のまち”と書いた方が印象に残るのではないかというふうに思いました。

僕は、自然は、放っておいたらあかんという話をしたが、図の方は分かりやすくしていただきましたが、[自然保全ゾーン]のところで「適正な育成管理を進め」とあるが、これは具体的に林業支援と表現して欲しい。

最後に、16ページの文章は難しすぎる。[都市の構造]読み切れない。具体的に言うと、この人口減少の時代に無秩序な都市の拡散なんてあるのかな。僕は無いと思っている。そのパワーがないと思っている。全体に文章がものすごく難しいですよ。小学生にはわからない気がする。

(会長)

全てにお答えできるかどうかわかりませんが、まとめながらお話をさせていただきます。

行政評価に関して今後どのようにやっていくのか、その手法が見えないのではないかな。内部だけで行政評価して、自画自賛しているような状況になっているのではないかなということだったと思います。行政評価の在り方などは具体的には基本計画になってくるので、基本構想そのものに行政評価をどうしていくかという手法の部分は書きにくいのではないかなと思います。考え方として例えば4ページ[計画策定の背景](10)持続可能な市政経営、あるいは18ページ[政策の大綱]5番未来につなぐ自立の協働による市政経営、あるいは最後の第5章[目指すまちの将来像に実現に向けて]の2番や3番が行政評価に関わるころになるかだと思います。どのように書き方を変えるか、若干言葉を加えるかというのはもう少し考えないと私もパッと浮かびませんけれども。

(委員)

今、実態はどうされているか分からないが、簡単に言うと、「オープンな手法による」という言葉でも構わないと思う。

(会長)

20ページの[2. 計画的・効率的・戦略的な行政運営]の中で、行政評価などを通じあらゆる視点から市民の満足度を重視した施策や事業を推進するということでやっていくとの姿勢が出ているのかなと思います。具体的にどういう風な手法を取り入れるかは、基本構想に書くようなレベルではないと思います。

また、16ページの「一方で、人口減少と超高齢時代においては、無秩序な都市機能の拡散等が進行すると、低密度の市街地が形成される恐れがあり・・・」というところが分かりにくいというご指摘であったと思いますが、これは、住居地帯が拡散をしている状態という意味であり、既にいろんなところに住居が点在をしている状態を指してこのような表現をしているわけで、もう少し書き方は工夫をしたほうが良かったかと私も今、ご意見を伺いながら思いました。

それから、名張の自然や景観の劣化について、課題とされていないのではないかなというご意見ですね。これはずっと委員が仰ってきたことですが、これに関しては17ページの先程来ご指摘いただいた、「市民一人ひとりが地域の生活環境を守り育てる意識を持ち」という形で、指摘があるということは、逆に言うと、自然の劣化に対する危機意識があり、それがまちづくりの基本目標になっているということでご理解いただけたらいいのかなと思いました。

あと、市民が恩恵を受けるということを中心に基本構想で書いていて、自分たちでまちづくり

をやろうという視点が見えないという指摘があったのですが、これは先程委員さんからご指摘があったことと裏表かなと思っておりまして、10ページの〔2. 重要課題〕の話と繋がってきますが、例えば〔(3)の助け合い、支えあいのまちの実現〕というのは行政だけでは実現が難しいが、家族が頼れる時代でなく、むしろそんな中でどのようにして支え合い、色んなサービスを受けるかが大事になってくる中で、“共助”が重要だと指摘している。地域は地域でやっていきますよ、ということも一応（総合計画の内容として）出させていただいているということです。

最後に、将来像がよくわからない。目指すまちの将来像は何なのか。ということでしたが、これは17～18ページの〔第1節 まちづくりの基本目標〕となるわけですが、基本的には5つの項目において過不足なく書けていると私は思っています。アピールポイントが無いと言えるかもしれないというのは、重々指摘をいただいておりますが、良い知恵が浮かばなく、もう少し考えてみたいかなと思います。

(委員)

将来像に関しては、「像」と書くから具体の形で示してもらえると分かりやすい。基本目標と像というのが、あまりぴったりでないのではないかと。僕が問題に思った原因は、そこやと思う。将来像という呼び名を変えてもらったら。

(会長)

あるいは、11～12ページですけど、〔第2章 目指す名張の将来像〕ということで、そのための戦略といいますか、こんなまちにしましょうという書き方になっているんですね。

(委員)

将来像で10年後のどういう姿が描かれているのか。例えば、市の財政はどうなるか、あるいは下水道の普及率が何%になっているのか、あるいは企業数はどうなっているとか、その辺が将来こういう形になりますよと具体的に、デジタル的に表現できれば一番良いのですが、それはあまり書けないが具体像としてはあるということですかね。

(会長)

その点に関しては、私の認識ですとももちろん産業の状況も大事です。あるいは、名張市の財政もすごく大事です。下水道普及率をどうするかということで、おそらく計画などの中で数値は挙がっていると思います。ただ基本構想の中では、一番根本としては77,000人の人口を維持したいという点にデータのものを集約していると捉えている。

(委員)

国が72,000人と推計しているのに対して、名張市が77,000人を目指す。77,000人を目指すとしたときの前提条件が色々あるはずですよ。その辺は多少具体的に、私もこれ聞かれたらどう答えたらいいのかなと教えて欲しいと思う。私は維持が精一杯と思うが、名張市としては産業政策上、6次産業化を目指すとか、産業振興ビジョン（【資料】関係計画一覧）でどう描いているのか分かりませんが、我々がここで議論したような良いまちに、自然が豊かで住みやすいまちに、10年後は今よりもっと良くなる、そういうことでいいんですかね。

(会長)

今の委員さんのご質問ですが、第3章について議論いただいた、第2・3回の審議会の時に意見が出るかと思ったのですがその時は出なかったんですね。77,000人という目標については、私の中では委員さんもお理解いただいているところですが、基本目標の中でも活力に満ちて暮らせるまちを進めていくんだと、そして若者の定住を促していくんだと、また、元気創造プロジェクトで、地域産業の振興やいきいきと働けるまちづくりを重点的にやっていくことによって、もっと多くの方に名張に住んでいただき77,000人を目指すということです。

(委員)

それをはっきりしておかないとダメなんです、長期計画は77,000人でみんなで幸せに暮らせるまちを実現するという事が一番ポイントなので、発表される時には、市民との協働により、新しいまちづくりをやっていくんだということを強調してもらわないと、と私は思っている。

(委員)

今言われた事に対して、人口問題が一番根底になっていると思います。1回目の時に事務局から77,000人を目指して3つの重点戦略を進めると発表があったと思います。実際どういう具体的根拠でそうなったのか教えていただきたい。

それと、産業振興ビジョンですが、これは平成21年4月にできたものです。それまで、名張市は産業振興ビジョンはやっておりませんでした。この時に、私も産業振興ビジョンの担当者として出させていただき、その時の目標等書かれておりますが、例えば23年度目標でそれ以降は、産業振興ビジョンは開催されてないのではないかと考えております。

(事務局)

77,000人の根拠ですけれども、13ページ下に【参考】として記載のとおり、国が掲げました人口目標を達成するために設定した合計特殊出生率、2020（平成30）年には1.6程度、2030（平成40）年には1.8程度に置き換え、さらに名張市の大きな人口減少の要因となっております社会増減の差引をゼロにすると、今、年間400～500人程度転出超過になっていますが、これをゼロにするという根拠で設定しました。そしてこの77,000人を目指すために、とりわけ人口維持をしていくために必要と思う取組を、3つの重点プロジェクトとして定めています。具体的な個々の取組は、市民の皆さんとの意見交換会を行いながら現在策定している『まち・ひと・しごと創生総合戦略』や各種分野別計画の中に盛り込んでいきます。

それと話は戻りますが、これまでの審議会の中でいただいたご質問やご意見は、全て拾い上げています。全部で79項目ありました。それを会長に提供させていただいて、そのうち30余りを修正という形で反映いただいております。ただ、やはり、基本構想に反映していけるものと、今、庁内で作っております基本計画でしか反映していけないものもあります。やはり具体的な取組になりますと、基本計画を作るうえでの貴重なご意見として進めさせていただいておりますので、その辺のところはご理解をいただきたい。

(副会長)

私は『まち・ひと・しごと創生総合戦略』に関する創生会議のメンバーにも入らせていただいている。一番の問題は人口減少であり、もっともっと具体的な形をどのように進めていくかということ創生会議の中で話し合いをさせていただいております。今、パブリックコメントをやっていきますので、そこでも意見は出てくると思います。

私自身としては、この『新・理想郷プラン』の素案はうまくまとめていただけてあるなと思わせていただいている。その中で、良い指摘をいただいたと思ったのは、危機管理について、もう少し丁寧に示せたらなあという気がしております。というのは、一番大事な生命財産を守る、将来にわたっての防災・防犯についてのことですので、それだけは少し触れておいたほうが良い。あまり詳しく書きだしたらきりが無いが。

10ページ[2.重要課題]のところもうまく纏めていただいたなと感心させてもらっております。子どもに関することも、地域、学校、行政が連携を持ってやっていくことが大事だということもきっちり入っていますし、それから、行政の取組と共に地域の中で共助がきっちり出している。共助、自助がこれから大事になってくるわけですから、それがきちっと入れて

いただいておりますこと、施策体系の方も修正していただいておりますし、私としては、色々な意見をうまく抑えておさえていただいたなという感じでございます。

(会長)

“安全・安心”という部分、特に情報化社会におけるセキュリティの問題、先程、委員からご指摘いただいた部分に関しては、もう少し私の方でも何らかの工夫ができたらと思います。

(委員)

6ページの市民アンケートのところですが、今年4月にアンケートをしまして、5月15日までの返答で行われたと思うのですが、今年の方は含んでいますか、去年の状況ですか。

(事務局)

最新のものとして、今年行った実績も入っています。

(委員)

前回の資料が2014年で、今回2015年が入ってますから、このアンケート結果、80パーセントが住みよい、85が住み続けたいという形は、前回と変わらないということだったと。

(事務局)

そういうことですね。若干ではありますが、住みよいというところが右下がりになってしまっ
てはあるんですが。

(会長)

6ページ[図2の2]に関して、一番下が50パーセントで線を引いているのですね。グラフの見せ方というのもあるんですよ。確かに右肩下がりであることは確かですが、しかしこれは高い数字だと、8割を超えているのは確かな数字だろうと理解して良いと思います。

(委員)

これは、名張市独自のアンケートですか。他と比較するという事はないのですか。

(事務局)

名張市独自のアンケートです。ここには反映しておりませんが、実は幸福度調査というものを昨年度と本年度行いまして、そこは国の選好度調査として幸せ度を調べるもの、三重県も幸せをテーマに同じような幸福度調査をしておりますので、その部分だけは、全国、県、名張市を比較できる数値は持っております。

ちなみに、昨年度は確か、全国より三重県、三重県より名張市の方が数値が高かったと記憶しております。

(副会長)

15ページで、[(3) 自然保全ゾーン]という形でずっと文章を書いてくれてあるんですけど、この中に、「自然災害に対する防災減災の観点から自然環境を保全し育成することが求められる区域とします」とあるが、これは完璧にやってもらわないと。これは、土砂災害救助法の適用を受けている、名張市で唯一のところがこのゾーンです。必要な地域ですよという意味を出しても良かった方が良いでしょう。

(会長)

いわゆるカタカナイメージの「適当」とは違い、当てはまります、該当しますという意味ですが、考えてみます。

(委員)

10ページ(4)のところ、「市税収入の伸びも期待できないという状況・・・」という表現は楽観的すぎかと思えます。同じ表現が20ページにもありますので、そこら辺は「市税収入が減少する危惧がある」とか、ちょっと考えていただけたらと思います。

それから前回の時に、17～18ページの大綱での表現ところと、19ページの表の表現とを統一して下さいとお願いしたが、[3. いきいきと働けるまちづくりに取り組みます]は、前は、雇用対策・就業支援となっていて、私は雇用対策・就業支援の方に合わせてほしかったと思うんです。もちろん若い人たちに転入してもらって生産人口が増えることも大事ですが、それにプラスして高齢者の方々も生涯現役で労働力として働いてもらうことも必要とも思います。それと、19ページの表のところと[③活力に満ちて暮らせるまち]の[地域産業の振興]と[いきいきと働けるまちづくり]は、『元気創造プロジェクト』にしか星印が付いていない。『若者定住促進プロジェクト』や『生涯現役プロジェクト』にも星印を付けてもらえたら嬉しいなと思うんですけれど。

それから、冒頭に委員が仰ったことですが、1ページ目の囲みの中の市民というところですが、市内で活動する団体となっていて、市内で活動する個人も入れてもらったら、例えば定期的にふるさと納税で支援してくださる方とか、ふるさと労働ですか、そんなことも含めて考えていただけたらと思います。

(会長)

何点かご指摘をいただきました。先ず、市税収入についての記述が楽観的ではないかという指摘ですが、基本構想というものをどういう風に捉えるかという部分があって、夢を語る部分なのか、厳しい状況でも頑張りましょうという部分を語るべきなのか、という聞き合いのところ、ここに関しては修正を入れませんでした。確かに、市税収入が減っていくと書くべきではないかというご意見と、そのあとにご指摘になった、特に19ページの活力に満ちて暮らせるまち、いきいきと働けるまちづくりの星が2つだけれど6つにすべきというのは、まさに市税収入が減っていくというのと一致し、両方を合わせる議論でありまして、もう少し私の方でも検討してよいのかなと思いました。

今日のご審議の中でも、やはり人口の維持について非常に多く出ていますが、人口を維持するためには、雇用だとか産業だとか、そういったものがないとダメだということに関しては、かなり強い形でご意見も出され、一定程度合意も得られているのではないかと思いますので、これに関しては私も考えてみたいと思います。

もう一点、1ページの“市民”の定義をどう考えるかというところですね。ここでの表現でいくと市内に住む人、働く人、学ぶ人、そして事業を営む事業者は入るけれどもそれ以外の個人が入らない。ここには個人を入れるべきではないかということで、それはそうかなと私も思いましたので、検討してみたいと思います。

(委員)

17ページをパッと開いたときに、「取り組みます」という表現がズラッと並んでいるのが目に入って来るんです。この書き方をもう少し工夫して、最初に取り組みますと書いて、以下は何々をと箇条書きみたいにするわけにはいかないのかなと思います。くどい印象があるのと、見づらいと思いました。

それから18ページの[若者定住促進プロジェクト]の「若い世代が安心して働き、結婚、妊娠、出産、子育て、教育がしやすい環境の整備に切れ目なく取り組むとともに・・・」の、切れ目なく取り組むという意味は分かるんですが、結婚から子育てまで切れ目なくとか、横のつながり連携をとという意味なんだけど、もう少し何か表現がないのかな。今一つピンと来ない表現だと思う。もっと分かりやすくするために名張らしくネウボラのことを出して基本構想の目玉にして欲しいという感じがします。

それから細かいところですけど、10ページの、「市税収入にも期待できない・・・」とい

うところで、私も同じことを思っていました。その下のところに、「人口減少と高齢化を現実問題として正面から捉え・・・」とありますが、今さらという感じがするので、そういう要らない修飾語は削って、必要なことだけ書いたらどうかと思います。例えば9ページの人口減少の最初の方「人口減少とともに・・・」のところもそう思います。

(会長)

「全国平均の倍のスピードで高齢化・・・」のところですね。

(委員)

10ページ重要課題のところ、「人口減少とともに高齢化社会といわれる時代において・・・」と始まるんですが、第3節でも人口減少超高齢社会と書いてきたので、くどい感じがする。今まで散々背景を書いてきていますよね。そういったことに読み手の意識を向けなくて、もっと名張市について書いていってほしいと強く感じます。

(会長)

17ページの何々に取り組みますという表現がずっと続いてくどいのご指摘ですが、箇条書きにして、取り組みますを全部削除すると、例えば1番、支えあい健康で生き生きと暮らせるまちで、[互いの人権を尊重し人を大切にする社会の創造]で止まってしまうと、目標としてやっていきますと姿勢が伝わらないといった感じもあると思います。

(委員)

社会を創造します、だったら。ネットワークを作ります、とか言ってくれたらいいんだけど。素直に言ってくれたら、地域福祉を充実させますとか。快適環境をつくりますとか。市民にそうしますよといっている感じがするんですが。

(会長)

逆に、私の頭が固いからかもわかりませんが、「まちをつくります」と言ったときに、できなかつたらどうするんだという怖さがあるんですね。それを目指して着手をしていきますという意味で「取り組みます」という表現にしました。

18ページ若者定住促進プロジェクトのところの表現では弱く、ニュアンスとして十分に伝えきれてないのではないかの指摘だったかと思うんです。これに関しても私自身は、頭の中でパッとイメージとして浮かんだのは、よくイギリスの社会保障で言われる『ゆりかごから墓場まで』という言葉でして、それはまさに生まれた時から亡くなる時までずっと切れ目なく充実した福祉をやっていきますという意味で、もちろんこの中に名張版ネウボラも含まれるわけで、私は“切れ目なく”という言葉が一番ぴったりくるんじゃないかなあと思っています。

9～10ページで“少子高齢化”という表現が頻繁に出てきてくどいという指摘でした。2つのレベルの少子高齢化があると思うんです。ひとつは全国的な潮流としての少子高齢化。そしてもうひとつは名張が全国を上回るスピードで訪れている少子高齢化。だからこそ名張としてそこを捉えていかないといけないという部分は、あえて強調する必要はあると思いました。ただ、10ページ重要課題の一番下、「人口減少と高齢化を現実問題として正面から捉え・・・」というのは改めて読むとちょっとくどいかなという気がしないでもありません。少し考える必要があるのかなと思いました。

(副会長)

これは、今さらながら捉えている。昔は何も捉えてへん。今になって初めて人口問題を捉えている。ようよう初めて減ってきて、これは考えなあかんえらいこっちゃとなってきたことに間違いはない。と、私は思いますよ。

(委員)

政策を推進します、取り組みます、努力します、など、5つか6つ、まず調を事務局は段階を使い分けているんでしょ。行政的には。

(事務局)

統一的に考えているつもりではいますが、そこは改めて点検いただければと思います。

(委員)

先程言われた18ページ若者定住促進プロジェクトの一行目なんですけれど、やはりここは読みにくい。先程、ネウボラとか出せばということでしたけれど、それと別に構成的なことなんですけど、並列で「結婚、妊娠、出産、子育て教育がしやすい環境整備に切れ目なく取り組むとともに・・・」というところの最後の「しやすい」は全体にかかっているわけですよ。これが例えば教育環境の整備とかと思ったんですけれど、そうなる教育だけになりますから、全ての整備ということであれば、結婚、妊娠、出産、子育て教育などが「しやすい」というのは、特殊な書き方かなと思ったんですけれど。

(会長)

確かに、この一文が長いですね。もう少し私もちょっと考えてみます。

(委員)

最初の時に言いましたように、市民に対するアピールを考えた時、行政側がそういう枠でいつもやっています、それに則ってしたのでは何も伝わらないというのがあると思うんです。こうやって市民から委員が出てやっている以上には、そこは変えてでもというぐらいの気概があってもいいのではないかと、それが共通の土台だと思うんです。出席されている委員の発言を聞いていると、ここはいじれないとか言われてしまうと、やっぱり最初の話に戻ってしまうんですね。その部分をいかに私たちが受け止めながら、それを反映していただけるかという形で進めて欲しい。こういう理由があるからこれはできませんというのは非建設的といいますか、先に進まないのではと思います。個別のことよりも、すごく私この会議の中で引っかかる部分で、今日は特にそれを思うんです。それがクリアできたらひとつひとつの文言とかは多分進んでいくんじゃないのかなとの意識を私は持つんですが、こういう言い方をすると元も子もないんですが、ちょっとずつと引っかかるんです。

(委員)

僕は、構想そのものは非常に良くできているというか、一般的にこういう書き方をせざるを得ないし、30年を見て10年を作っているから、どちらの方向に向かうんだという道しるべだと思うんですよ。大事なのは3年ごとに見直す基本計画だとか、より具体的にブレークダウンしていくときに、そこにそういうことを全部埋め込まないと空論になってしまう可能性があるんで、ぜひお願いしたいのは、基本構想はここを名張市は目指すんだと、非常にある面では努力していただけてうまくまとめていただけてるんで、問題は基本計画を作っていくときに、デメリットとメリットがあるため相反する意見がどんどん出てくる。市民の間でも出てくるんで、それを如何にして計画の中に織り込んでやっていくかがすごく大事です。我々もこれまでいろんな意見を、個々には紙面の関係で反映できないけども、その考え方とか精神とかいうのを、基本計画の中にぜひ、実施計画に近いものに入れていって欲しい。市民公募として来た者の意見として、是非お願いしたい。

(会長)

先の委員のコメントは、まさに、最初の方でも触れられましたけれども、ここで出た意見は、基本計画の策定においてそれぞれの部署の方に伝わっていくことになります。したがって、その

魂はおそらく行政そのものに活かされていくだろうと思います。

後の委員からの厳しいご指摘に関しては、他の何名かの委員からも共感されている。どこまで直せるのかというか、何をしてもよいのかという部分ですけれども、繰り返しにはなりますが、これでもかなり修正をかけた方です。表現がチョット行政文書（のように硬い表現）になっていて市民に訴えかけるようになっていないのではないのかという点に関しては認めざるを得ないところもあると思います。むしろ、基本計画を定めたうえでの公表であるとかPRの方法の方で足りない部分、市民に向けての訴えかけの部分をフォローしていきたいと私は思っております。

(委員)

副会長が先程仰った、今まで人口減少誰も考えてなかったという点で、この前の市広報にこんなことを書いてありました。「本市は大規模な住宅地の開発に伴い同世代が同時期に転入され人口が急増しました・・・」と。これ、増やす時にもこちらの意思は何もないですよ。自然に増加したから喜んだんやろけど。今回もきちっとしたもの、どこまで歯止めをするんや、もっと減らすのかと意思を持ってもらわなあかんと思うんですけども、せやから本音で書くというのがさっきの委員の話やないけど、“切れ目なく”を、例えば“ネウボラ”のように書いたら分かる人は増えると思うんですよ。

それと、行政として基本構想にはそこまで書けへんというのなら、解説版を出すというのはどうですか。小学校の教科書です。これを提案させてもらいたい。

(会長)

ピーアールの方法もぜひ検討させていただきたいと思います。

(委員)

18ページ[若者定住促進プロジェクト]の名張版ネウボラのところにプラスして、親の介護というのをぜひ入れて欲しいです。若い世代が安心して教育していくためには、今、結婚年齢も遅くなっている子育ても遅くなっているということは、子育てと同時に親の介護をしている世代が、確実に増えてきています。子育てには支援してくれるけど、介護には全然支援してくれないんです。私は名張出身ではありませんが、ここで子育てをしたいと思ってこのまちを選びました。でも親は車で1時間15分離れたところ、夫の方は奈良県で、私の親は愛知県で3時間かかります。私は両方に介護に行っています。すごく大変です。なので、子育て世代に名張に住んで欲しいのだったら、元々いる人を離さないという発想は嫌だとこれまでも言ってきたんですけど、市外から子育てのため名張を選んで来た人が、やっぱり名張に住んでいては親の介護が出来ないために自分の元いた所に帰らざるを得ないという状況を作るのは良くないと思うんです。だから、若者定住促進のためには、現役子育て世代が同時に介護もしなくてはならないという視点を、名張は持って欲しいと思います。それをこの構想に是非入れていただければ、今後色んな計画を立てるにあたって、そこが抜けていかないのではないかと思います。それが入ったら、私、この委員会に出た意味があると思います。

(会長)

介護する側への支援、ということですね。

(委員)

若い世帯は名張にいるけどその親は他の所にいるという人を支えるという視点が、どこの自治体にもないと思います。それが入ったら名張はすごいと思います。

(会長)

非常に貴重で、確かにそうですね、というご意見をいただきました。

(委員)

当初から議論になっている“本市”という表現ですが、7ページ第3節のところ、是非ともタイトルも括弧の中に入っている[本市の重要課題]、ここだけはやっぱり[名張市の重要課題]として欲しいと思います。ただの課題ではなく重要課題ですから。

(会長)

私もいろいろ意見を伺いながら、アーと思ったのが結局、委員からご指摘いただいた20ページの目指すべきまちの将来像が分からないというところ、ここも合わせたほうがいいですね。第2章で「目指す名張の将来像」としてあるので、ここに関しても[目指す名張の将来像の実現に向けて]にした方がいいなと思います。

(委員)

“まち”というのが分かりにくいですね。ひらがなのまちの意味するところが。

(委員)

20ページ[協働のまちづくり]のそれも、何か分かりにくいなと思いました。変えなくてもいいと思いますが、前からこの“まちづくり”って名張市が進めている地域づくりのまちづくり協議会があるけど、それとまた違う意味なのか同じなのか何を指しているか分かりにくい。

(会長)

ここは地域づくりも含めた全体的なまちづくりと。

(委員)

単語としてのイメージで。

(会長)

はい、そうなります。

(委員)

さっきも言った人口展望の77,000人。これは基本的に今回の総合計画でこの数字をあげていくとなると、市のいろんな計画やら文章やらで2025年には77,000人という数字を示されるんですね。そのあたり、皆さんの意思疎通をしておいてほしいのですが。

(事務局)

この数字はあくまで目指す人数です。やはり様々な計画の中においてもこれとの整合が必要です。しかし例えば、インフラ整備や維持管理の関係の計画なんかですと、その計画の中ではもう少しシビアな、現実も見た数字にしていく必要もありますので、分野によって多少使い方も変わってくると思います。

(委員)

77,000人は希望ということやな。

(事務局)

はい。

(委員)

ということは、『まち・ひと・しごと総合戦略』の[人口の変化が市財政に与える影響]として市税収入の見込みを立てていますが、そこでは2015年78,075人、2020年で75,525人となっているんです。同じ市が出している資料で、ここらとの整合がとれてないんですね。この辺りのことでもありますから、委員の皆さんの意識を同じようにしておかないと思います。

(事務局)

審議会委員の皆さんにはお示しできていませんが、『まち・ひと・しごと創生総合戦略』の中

で、人口が減ると市税収入も減るということを数字で示した表があります。この表は、国立社会保障人口問題研究所の推計でいくと、今後どんどん個人市民税収入が減るということを示すためのものです。

また、先程も言いましたように、現実問題として、将来展望人口はあくまで目指す数字であり、これを全ての計画で使うと、様々な点で過大見込みとなってしまう可能性があります。したがって、目標と現実に近い見込みの数字を使い分けする場面も大切であると考えています。

(委員)

4ページ(10)のタイトルが「持続可能な市政経営」となっています。文章の最後のところで「行財政運営」となっていることに委員からも指摘が出ていましたけれど、「経営」と「運営」の使い分けを意図的にされているのであったら、ひとつの枠の中でタイトルと本文の中で違うのは問題かと思います。

(会長)

「市政経営」や「市政運営」というのはよく聞くが、「行財政経営」というのはあまり聞かないんですね。「行財政運営」というのは聞くんですが。「運営」も「経営」も英語ではマネジメントになるので統一すべきだという点について、それはそれでありだと思います。一般的に使われている言葉の語感ですとか、そういう部分でご理解いただけると、ありがたいです。

(委員)

タイトルと本文の話で、他の部分で違う言葉で言い表すのは構わないと思いますが。

(会長)

大体よろしいでしょうか。この後、中間答申を出ささせていただきパブリックコメントにかけていくことになります。中間答申案につきましては、今日いただきました意見をもとに、できるだけいただいたご意見を反映させる形で事務局とともに修正する形で私にご一任いただきたいと思います。ご理解ご了解いただけますでしょうか。

※他の委員から了解

ありがとうございます。今後の予定について、事務局から説明いただきたいと思います。

(事務局)

今後のスケジュールですが、中間答申を審議会としておまとめいただき、8月の下旬には、議会にご提示させていただきます。その後、9月14日から10月13日の間にパブリックコメントを実施したいと考えております。

パブリックコメントにつきましては、基本計画素案の方も合わせて実施させてもらう予定になっています。パブリックコメントの意見を取りまとめさせていただきます。整理をさせていただいた後に11月に改めまして審議会を開催させていただきたいと思っております。その後、最終答申をおまとめいただくという形のスケジュールで進めさせていただきたいと考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

(会長)

ということで、長時間にわたりましたが、改めて委員の皆さん方の貴重なご意見をいただき本日も審議いただきましたこと御礼を申し上げます。本日の審議会を終了とさせていただきます。ありがとうございました。